

# 稲作情報 第7号 (収穫、土づくり編)

- ◎コシヒカリの5月13日頃の田植えほ場では、7月31日出穂、9月10日頃に成熟期を迎えると見込まれます。
- ◎気象変動に強く、高品質な米を生産するため、「ケイ酸質資材」を継続して散布しましょう。
- ◎カメムシの産卵場所を少なくするため、畦畔の草刈りや、稲刈り後の雑草を防除しましょう。

## 1 適期刈取 ～ 胴割米の発生防止 ～

- ・田植時期や地域、水管理により成熟期が異なるので、必ず籾の黄化状況を確認し、適期刈取に努めましょう。
- ・作付面積が大きい経営体は、少し早い籾黄化率80%程度から収穫を開始し、適期内に収穫を終えましょう。  
※籾黄化率85%：右図点線内の2次枝硬籾の半分以上が黄化した時
- ※**「富富富」は、80%から刈取り**
- ・クサネムやヒエ等は、収穫前に必ず抜き取りましょう。

生育の中庸なところで確認しましょう。  
※外から見ると大きく異なります



籾黄化率85~90%  
ほ場内の平均的な穂の、上から3,4本目の枝硬の付根の籾(点線内)がすべて黄化した時

出穂後、高温で経過し、胴割米の発生が懸念されます。  
刈り遅れには注意しましょう。

## 2 乾燥・調製作業

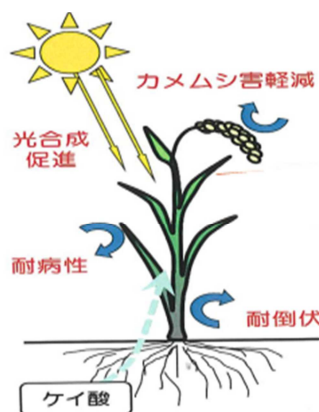
稲作情報6号を確認ください。

## 3 ケイ酸質資材と堆肥の施用

- ・稲刈り後は、ケイ酸質資材100kg/10aを散布し、地温が高い10月下旬までに耕起し、稲ワラの分解を促進しましょう。
- ・堆肥は、土壌中の腐植を高め、保水性や通気性を改善するので地力の低い圃場に施用しましょう。

### ■ケイ酸質資材、堆肥の施用量目安

資材名	10a 当たり施用量
土力源	100kg
新スーパーエスアイ加里	100kg
牛ふん堆肥	1~1.5 t
籾がら堆肥	1~2t
発酵鶏糞	75kg



## 4 雑草対策 ～ カメムシ類の産卵場所をなくそう

- ・水稻の収穫後は、すみやかに畦畔草刈を実施しましょう。
- ・オモダカ、クログワイ、キシユウスズメノヒエ等の雑草が多発しているほ場が見受けられます。
- ・10月上旬までに、ラウンドアップマックスロード50倍液(薬量500ml/水25L/10a)を雑草にかかるよう散布し、2週間後を目安に耕起しましょう。



オモダカ

チクゴスズメノヒエ